

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400268
法人名	吉岡林業有限会社
事業所名	グループホーム妙義の里のぞみ
所在地	富岡市妙義町諸戸88 (電話) 0274-73-2369

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(20 年 8月 11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人	常勤換算 4.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:月6,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	又は1日 1,200円			

(4)利用者の概要(8月 11日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・公立七日市病院・妙義診療所
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季折々の自然に恵まれ、ホームの前には田畑が広がっている。妙義山麓の山間に立地している。門を入ると庭には東屋、インコの小鳥小屋、犬の小屋があり、玄関周りには草木が植えられている。癒し犬のボンが歓迎をしてくれる。建物は平屋で原木素材を活かし、ホールや玄関の柱に据えられ、床や壁は木製で感触がよい。入居者は一人ひとりの人格を尊重され、天気の良い日は東屋で入居者や職員とティータイムを楽しみ自由な日常生活を過ごしている。全職員は謳われている理念を一人ひとりの入居者の生活に具現化し、支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題を全職員で検討し、理念の見直しを行う、市町村との連携強化を行う、運営推進会議に自己評価や外部評価の取り組み状況を報告する等の取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者と職員で話し合いを行ない作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業概要、生活状況、自己評価及び外部評価の結果を議題に話し合いがされている。評価項目の改善点を会議で話し合い、出席者からの意見を頂き運営への活用をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の訪問時に意見、苦情等について話してもらえよう働きかけを行ない、また苦情等の受付窓口を紹介したパンフレットを配布し、意見箱も設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者は、地域の行事や近隣にある学童保育の場に出かけたり、地域の方が構成するオカリナやフラダンス等のグループ、小学生・中学生の体験学習、高校生のボランティアを受け入れ、地域の人との交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、「入居者個々の人格を尊重し、地域の中で各々の個性を活かす日常生活を具現し、共有することを旨とする。此処に集う者、皆家族」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、管理者と職員は理念を唱和している。申し送りや会議で、話し合いを行い、入居者の人格を尊重した言葉かけ、食事や外出等の希望を取り入れ、悩みを汲み取り対応する等日々の自由な暮らしの支援を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	もみじ学園や白雲寮の花火大会や若葉祭等に参加したり、地域の中学生の体験学習を受け入れている。園児、高校生のボランティア等の人達がホームを訪れたり、オカリナやフラダンス等のグループが年に数回訪れて披露し、その折には近隣の方を招待し、近隣の方達との交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ケアマネージャーが自己評価をし、職員会議で報告し話し合いをしている。全職員は評価の意義を理解し、改善に向けての検討から、理念の見直し、行政への報告や問題点の相談等を強化しサービスの質向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2ヶ月毎に開催している。事業内容や生活状況、自己評価及び外部評価の取り組み状況等を議題に挙げて報告し、意見交換がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の問題が生じた折には、市への所用や会議の折に担当者に会って相談し、アドバイスをもらいながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム利用料を支払いに訪れる家族等へ、入居者の日常生活状況を報告している。体調の変化については、その都度電話等で連絡している。行事や日常の暮らしぶり等は写真を撮り、廊下に掲示してお知らせもしている。入居者の必要な物品購入をした場合は、立替金処理し、利用料請求の際に領収書を添付し請求をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情等についての窓口は、重要事項説明書に明記し入居時に説明をしている。また受付窓口を紹介したパンフレットを家族に配布し、意見箱も設置している。毎月の支払い時、家族等に意見や要望を聴くよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職した場合は職員の補充は早期に行ない、新採用職員には内部研修を実施しサービスに支障のないようにし、本人や家族に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県地域密着型サービス連絡協議会や市のケアマネージャー会議等の研修に、管理者とケアマネージャーが参加している。職員は、救命についての研修を受講している。職員会議では、研修報告を行い、介護サービスの勉強会を行っている。また管理者やケアマネージャーがスーパーバイザーとなり、日々の業務のなかで指導助言を行い資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県地域密着型サービス連絡協議会の大会や富岡・甘楽地区グループホームの会議に出席し情報交換を行ったり、支部主催の見学研修に参加し、サービスの質の向上に励んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学して雰囲気を知ってもらうことから始めて、管理者やケアマネージャーが自宅を訪問し今までの生活歴や職歴、暮らしぶり等の情報を得ながら、馴染めるように家族等と相談し工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方から食事の味付けやお焼きの作り方等を教えてもらったり、職員が沈んでいる様子に「どうしたんだい」と声をかけられ励まされることもある。本人を介護される一方の立場におかず、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、一人ひとりの気持ちや暮らしの希望を聴き、また困難な場合は家族からの情報を得て本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーは、本人や家族が訪問の際に意見や要望を聞き、介護プランを作成している。作成された介護プランは、職員会議で検討し、意見やアイデアをまとめ、一人ひとりの入居者に合わせた介護プランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護目標は3・6ヶ月となっているが、月1回は職員会議で個々のケース検討をしている。入居者の体調の変化を生じた際には申し送り時や会議で話し合わせ、プランの見直しを随時行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや買い物、病院の送迎を職員が行っている。近所の理・美容院への希望があると家族と連絡をとり、家族が同行できない場合は、ホームの職員が付き添い支援をする等柔軟に対応している。また希望する入居者には、職員が理髪する場合もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から、地元の医院や富岡総合病院の医師がかかりつけ医になっていて、定期的な受診をする際職員が同行している。受診結果をその都度家族に報告している。また、入居者のなかには、2ヶ月に1回は西毛病院の医師に認知症について相談し指導を受けるなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの最大のケアについて説明をしている。体調の変化により入院するが、回復後は本人や家族の希望でホームに戻り生活をしてもらっている。今まで看取りをした入居者はなく、終末期についてホーム内の職員とで話し合いしているが方針は明確になっていない。	○	本人や家族の意向を踏まえて、重度や終末期のケアについて関係者と話し合い、方針を明確にし、全員が共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴の介助時、人格や心理面等に配慮し、同性介助をしている。プライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしないようにしている。記録類の個人情報の取り扱いには留意して、事務室に保管をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	庭先の散歩、買い物、季節行事の外出、畑や庭先の草むしり、犬や小鳥、山羊の餌やり等を支援している。気の合わない入居者同士の場合には、原因を把握し仲裁をし、席替え等を行ない、一人ひとりの要望や思いに配慮して柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れて職員が献立を作成している。畑で収穫した新鮮な野菜が、食卓にほぼ毎日並んでいる。食事の準備や配膳、下膳、後片付けを、入居者と職員は一緒に行なっている。時には、東屋でティータイム、バーベキューを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回(火、金)の入浴日となっていて、入浴日以外で希望する人にはシャワー浴をしている。拒む人には話題を変えながら誘導し、入浴ができない人には更衣や全身清拭、シャワー浴をしている。季節には柚子湯、菖蒲湯等で楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯ものたたみ、掃除、山羊やインコの餌やり、野菜や花を育てたり、ゲームやトランプ、折り紙の作品作り等を行っている。季節行事の餅つき、繭玉づくり等職員と一緒に楽しみ、一人ひとりの力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭に出て散歩をしたり、東屋でのティータイムをしたり、ホーム前の野菜畑の小屋に飼われている山羊の餌やり、買い物、花見や梨狩り等季節毎のドライブを楽しむ等、希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解していて、日中は居室、玄関、勝手口、門扉等には鍵を掛けておらず、入居者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	5月には妙義町全体で防災訓練を実施し、ホームでは年に1回避難訓練を入居者と一緒に行なっている。避難経路として近年道路側ホーム入口のスロープと裏門も取り付けている。隣りは理事長や職員の住宅で災害時の応援を依頼している。飲料水や食料等の備蓄はしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの介護記録に食事摂取量や水分量、バイタルサイン、排泄等のチェックがされ、職員は情報を共有し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の横に台所があり、ご飯の炊ける匂いを感じられる。広いホール中央のテーブルには季節の花が生けられ、入居者の語らいのスペースとなっている。ホール窓際にはテレビにソファ、リハビリの為の運動器具やマッサージ器も設置している。トイレ、浴室、廊下等は清潔感があり、入居者が気持ち良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスが持ち込まれ、カレンダー、時計、アルバム、写真、化粧水や鏡等の日用品があり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		